

山城の条里と平安京

米 倉 二 郎

【要約】平安京の立地を条里の側から明かにせんと企圖した。すなわち、これまで不明であつた愛宕、紀伊兩郡の条里を復原したところ、この兩郡の郡界線は山城盆地北部の中央を東西に通る線で平安京はこの線を基準としてその南京極をえらんだものとおもわれる。又葛野、愛宕兩郡界はこの盆地の中央を南北に縦断する線で、平安京朱雀大路はこの線を基準としたものと考えられる。

序

平安京の先都である平城京については大和盆地に於ける条里の復原を通じて、その都制が明かにされ、その立地が確定された。平安京の都制は拾芥抄に詳記され閑然するところ無きに近いけれども、このプランを山城盆地の現在位置に措定した事情は不明であつた。この小稿は山城盆地北部の条里を復原し、これとの関連に於て平安京の立地を解明せんことを目的とする。

山城の条里については、古く堀田璋左右氏^①が部分的に指

摘され、ついで喜田貞吉博士^②が特に葛野郡について詳述された。更に葛野の条里は福山敏男氏により一層正確に復原された。しかしながら平安京の東半から北郊を占めた愛宕郡、平安京に南接する紀伊郡の条里が究明されなかつたので条里の側から平安京の立地を問題とすることができなかつた。そこで小論では愛宕、紀伊兩郡の条里を復原して平安京との関連に及ぶこととする。

① 堀田璋左右 条里の制 史学雑誌一一の一一、一二明治三四年

② 喜田貞吉 山城北部の条里を調査して太秦広隆寺の旧地に及ぶ歴史地理二五の一、二大正四年

③ 福山敏男 山城国葛野郡の糸里について 歴史地理七一の四
昭和十三年

一 愛宕郡の糸里

平安京の成立後の愛宕郡は北部の下鴨、上賀茂、東北の白川、東部の東山一帯を占めていた。この郡に糸里が施行されてあつたことは東寺百合文書や平安遺文所収柳原家記録^①等の文献によつて知られる。後者の松崎陵戸の田の愛宕郡に於ける所在として下山田里四坪以下、土下里、八加里、美努里、求池里、木野里、水田里、額田里、同西里、未刀前里、越女池里、蓼倉里、神坂里、萩原里等をあげている。このうち蓼倉は今も下鴨の町名に残っている。又白河陵戸の田の所在として大副里二坪以下、上鳥里、萩原里、八条鳥部里、須具田里があげられている。しかしそれこれらの里の比定及坪並の推定もこれのみでは困難である。

しかるに東寺文書^②に見ゆる勘珍皇寺の糸里坪付は愛宕郡糸里復原の有力な史料である。その要点を摘記すれば、

鳥部郷 四至 限西愛宕里 限北公田
三条野里 三坪四段二百八十歩

(中略)

同里東外 四坪一丁

(中略)

八坂郷 四至 限東山峰
限西公田

限南百姓宅
限北寺舟宅

四条高橋里

廿五坪一町 田一段廿歩 廿六坪一丁 田五段廿歩

卅三坪五段二百十歩 卅四坪 六段百七十八歩 卅三坪

卅五坪一丁 寺内外残寺 卅六坪 一丁 寺内外

同里東外

一坪一丁寺内 二坪一丁寺 三坪一丁 寺北 三坂寺跡

四坪一丁 五坪一丁 八坪一丁道東 八坂寺大人

九坪一丁道東北 十坪一丁道 十一坪一丁河東

十二坪一丁同東北平住一段寺内

錦部郷六条 古川里 十九坪一丁

(中略)

長保四年二月十九日

(下略)

珍皇寺の寺地は四条高橋里の卅五、卅六坪とこの里の東側で一坪二坪にわたり、その三坪は寺の北に当るので坪並は南から北すること、更に卅五、卅六が東側の一、二坪と近接するものとして第二図の如き坪並を想定することができるとする。

珍皇寺は現在建仁寺の南、六波羅密寺の東にあるが、これは後世再建の際寺城が多少移動しているものであろう。

京都坊目誌^③が平康頼の宝物集に珍皇寺の北にあるは坂塔と記されるをひき、現位置より東南二町許りに故址を推定しているのは理由のあることである。

八坂の塔即ち法観寺^④は伝聖徳太子創建以来幾度かの再建を経て今日に至つており、その位置は珍皇寺の故址を推すべき基準とすることができるとする。右の珍皇寺坪付に於て寺域の東北二町八坪に八坂寺の註記がある。しかし八坂寺の寺域は同寺所蔵の足利時代の古図によればかなり広い範圍を占めていたやうで、八ノ坪を以て塔の位置と断定はできないが先ずその附近に相異なからう。この古図に鳥部寺と記されるものが珍皇寺と推し得るがもとより絵図で距離や方向の正確を期し難いが塔より稍東南に画かれている。

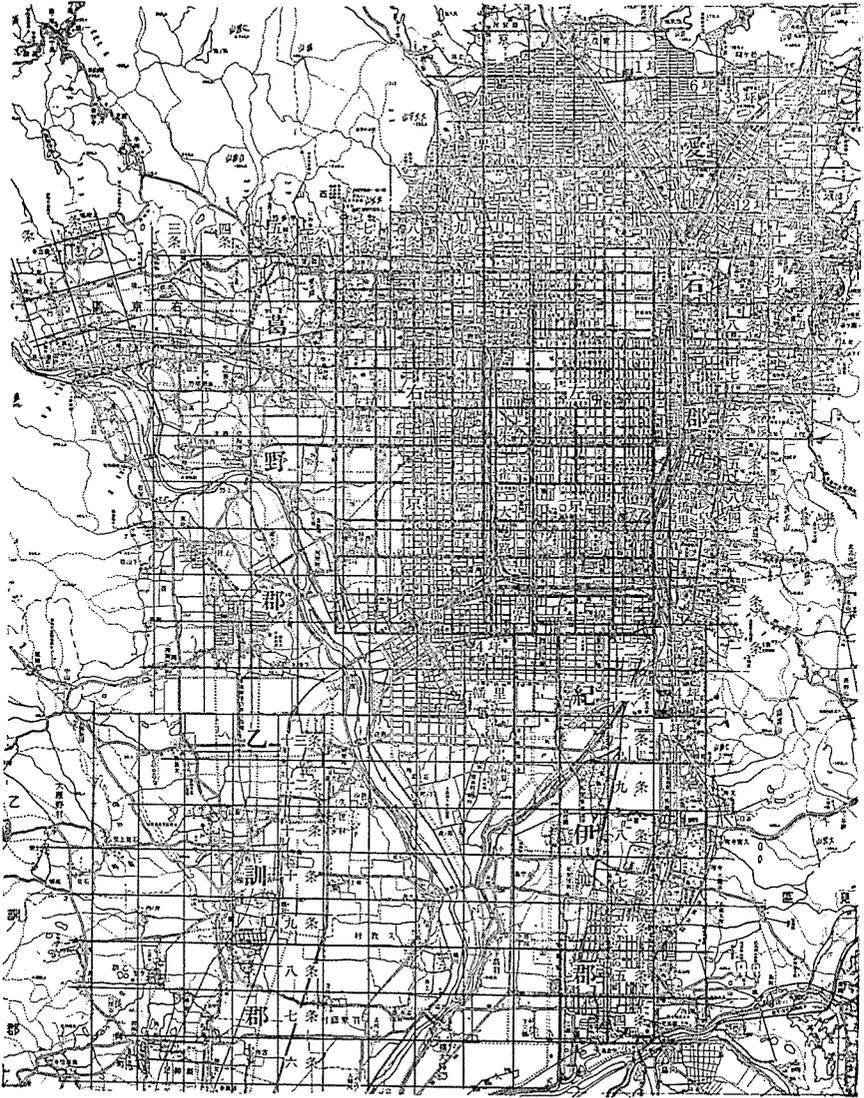
かくて塔より二町ほど南方に方四町に亘る珍皇寺の故址を求むることができよう。

珍皇寺は八坂郷の四条高橋里にありそれに対して鳥部郷に三条野里がある。鳥部は八坂より南にあるから愛宕郡の糸は南に始つて北したものであることが知られる。

坪名の遺存するものを調査するに松ヶ崎に六ノ坪、三十三、植物園の北部中央に一ノ坪、百万遍の東北に十二の坪

上高野に三十三等の所在を確めることができた。これ等の坪に妥当する坪並は西南隅を一ノ坪としそれより北行六ノ坪に至り東に折返して七ノ坪より十二ノ坪に南下し以下之

を繰り返して東北隅が三一坪東南隅が三六坪に終るものにならねばならぬ。この坪並は珍皇寺址附近で想定したものと符節を合する。それで之等坪名と平行する溝渠畦畔を便として糸里の界線を引くことができよう。ただ高野川の扇状地附近は左岸では糸里の方向が微弱ながら東偏し、右岸では西偏している。扇状地の影響がなくなるとはほぼ南北の正しい方向にかわる。糸里の厳正な復原には多数の坪名の遺存道路網等の遺構が必要であるが、この郡ではそれらは北部に限られ、南部では後年市街地の発展により当初の地割が抹殺されたところも多く不本意ながら推定糸里線を延長して大要を知ることがを以て満足せねばならぬ。従つて図上に引かれた糸里線はその末端に於て、一、二町の誤差を含む蓋然性がある。復原図に於て八坂塔は七坪附近である。八坪が八坂寺境内であつたからこの復原図は当らずといえどもほぼ近いものといふことができよう。図上で知られる珍皇寺の故址も亦然りである。高橋里と称した所



第一図 山城盆地各郡の条里と平安京

以はおそらく鴨川に架した高橋に負うたものであろう。これより一条の起点を求むるに月輪東福寺の谷附近に至るであらう。

平安京創設以前にあつては愛宕郡は鴨川をこえて西の葛野郡と堺を接していた筈である。葛野郡は喜田、福山兩博士の研鑽の結果条は西に始つて東し、多分九条を以て終つたものとされている。されば愛宕郡はこの葛野郡九条の界線に隣するところまでを包含したものと考えられる。ここまで条里線を延長すると愛宕郡の条里と葛野郡の条里の東西線は全く一致することが知られる。そして南北線も殆んど一致するが、兩者の間に幅一町以下の余地が存在したかもしれない。何れにしてもその郡界線の位置は平安京の中央南北の基準たる朱雀大路に極めて近接していることがわかる。

- ① 竹内理三編 平安遺文五卷 昭和二九年
- ② 東寺文書 卜四
- ③ 碓井小三郎 京都坊目誌 下京之部 乾 大正五年
- ④ 魚澄惣五郎・梅原末治 八坂法観寺 京都府史蹟勝地調査報告 第三冊 大正十一年

二 紀伊郡の条里

紀伊郡は北は愛宕郡に接し、南は巨椋の池に至り、東は東山の丘陵で宇治郡と西は桂川で乙訓郡に堺していた。この郡にも条里が施行されていたことは東寺文書その他に条里坪付の文献があり、京都南郊の田野の間にある溝渠畦畔の配列から知られるところである。

堀田璋左右氏は前掲論文に於て東寺文書に十一条幢里六坪^①に東寺前の注があり、十二条再佐里に字来生という所があり北は九条大路を限るとあることから之を羅城門の遺址附近におき、かくて紀伊郡の条里は「京師九条の南極と直角に東より条を立てたるが如し」とされた。

喜田博士も亦前掲論文に於て貞観十三年閏八月、百姓の葬送及放牧の地として定められたものの中に十条下石原西外里、十一条下佐比里、十二条上佐比里があることに注目され、石原は和名抄石原郷の地で桂川に瀕して旧石島村石原があり、佐比は右京佐比大路の末で桂川を渡るところに佐比大橋が架され、この附近が所謂佐比河原で平安京の葬送地であつたことに着目された。そして桂川はこの附近

を東南流しているの十二条の上佐比里は十一條の下佐比里よりも上流つまり西に位置するものとして紀伊郡の条は東より西したものでならんとして先に堀田氏と同じ想定に達せられた。

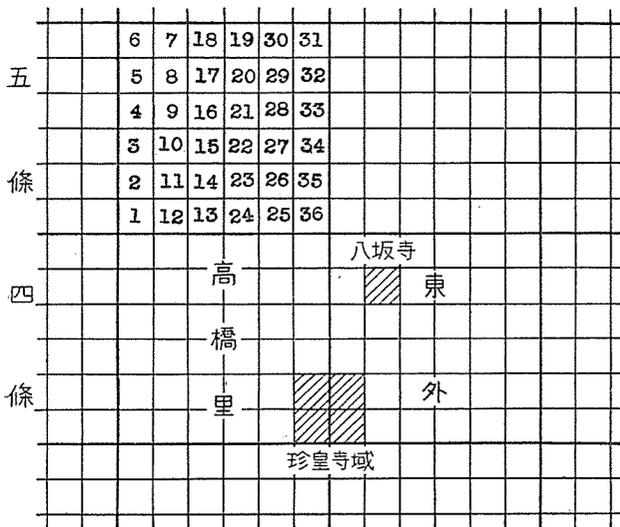
しかし堀田氏と喜田博士は共に紀伊郡の十一條十二條に亘る坪付を論拠とされているが前者は東寺、羅城門附近にあり、後者では桂川河畔で条が東から西するものとしては到底両者を同時に満足させることができない。

しかるに上下佐比里は北と南との関係位置に考えることができるし、又羅城門附近を十二條とし、東寺前の田は稍南下して十一條にあつたとすれば、即ち条は南より北したものであるとすれば何れの文献にもすべて無理なく妥当する。

坪付の遺名を調査するに深草の一ノ坪がありそこから二町北して深草森吉町の中に四ノ坪がある。一ノ坪、四ノ坪とも東西には稍拡張しているが南北の幅は一町である。尚羅城門址の字来正に接近して四ノ坪がある。

この三者を満足せしめる坪並は西南隅を一ノ坪とし、西北を六ノ坪、東北を三ノ坪、東南を三六坪とするもの、すな

わち愛宕郡の坪並と同様のものであつたとされねばならぬ。これによつて条里の界線を引けば第一図の如く条里坪付の文献もそれぞれの位置がほぼ妥当する。ことに東寺百合文書曆応二年八月十一日付の活却状に「山城国紀伊郡幢里拾



第二図 愛宕郡条里の坪並と珍皇寺域

一坪西寄 限西大歳、限北堀河」とあるが、この幢里は東寺前の十一條幢里に相違なかるべく、その拾一坪の北に堀河があつた筈である。堀川は平安京の東堀川の流末で北から南に掘られたものであるが、その東西流する部分は南京極に沿つたところと、その南で此処に問題とする僅かな部分だけである。想定図に於て丁度堀河の位置が文献と合致するので、この想定は畧信を置くに足るものと思う。

かくて得られた紀伊郡の条里は南端の巨椋池畔淀町北方を一條の起点として漸次北に数えて十二條に至つたことが知られる。それから北は愛宕に属したであろう。愛宕郡の条里復原では紀伊郡との堺に多少の余地があり、その北が愛宕郡の二條となつてゐる。この余地は復原の誤差であるかもしれないが境界帯としても理解される。そして後の平安京はその南京極がこの紀伊郡の十二條の東西線に畧よつたものならんことが知られるのである。

- ① 東寺百合文書 リ一
② 東寺百合文書 ト

結語 山城各郡の条里と平安京との関連

山城の愛宕、紀伊、葛野三郡の条里は互に連関して施行されたようである。何れも子午の方向に殆んど一致する条里である。先づ愛宕、紀伊両郡は坪並も条里呼称の進行方向も全く同様で西南隅を一ノ坪として北行、西北隅が六ノ坪、それより東に折返して進行し、東北隅が三一坪、東南隅が三六坪に終る形式で、条は郡の南端に始り北上し、里は郡の西端より東に数えたと思われる。そして両郡の境界は紀伊郡の十二條の東西線で劃された。この線は巨椋池より北方の山城盆地の畧南北の中央を通つておる線で、おそらくこの地方に於ける条里施行の東西の基準線であつたかと想像される。

葛野郡と愛宕郡の条里に就いて考うるに、葛野郡の条は郡の西端に起つて東するもので坪並も亦西北の一ノ坪、それより東行東北隅が六ノ坪、南に折返して西南隅が三六坪、東南隅が三一坪に終る形式で愛宕郡と相違している。しかし条里の東西線が一致し、郡界は葛野郡の九條の南北線である。愛宕郡某里の南北線はこれと殆んど一致する。或は

一町以下の余地を存する如くでもある。これは、復原にともう誤差かもしれないが何れであつてもこの際は差支えない。とにかくこの線は巨椋池以北の山城盆地の東西の真中を縦断する線でおそらく条里施行の南北の基準線となつたものであらう。

かくて山城の郡が分たれたときこの四分線の東北部を愛宕郡、西北部を葛野郡、東南を紀伊郡としたものの如くである。西南部には桂川が乱流しているの、その河岸まで紀伊郡に入れ桂川の右岸に乙訓郡をおいた。

乙訓郡については先に吉田敬市博士^①の復原があり、後に東大史料編纂所土地制度史研究会の諸氏^②による補考が行われ、その詳細が判明している。ここでは平安京に直接関係がないので詳述は避けるが、北の葛野郡との境界は葛野、紀伊両郡界線よりも二里南の東西線にとり、一町の余地なく接続している。但、乙訓郡の条里の地番附けは紀伊郡と規を一にし、従つて葛野郡と相違している。南北線も二町齟齬している。乙訓郡と紀伊郡とは条里線も地番附けも全く同様で連続している。但し、紀伊郡の一条の起点は乙訓郡のそれより三里北に始つているので紀伊郡の方が同列の

里で三だけ条数が少ない。尚郡界は大体桂川に沿う里によつており、従つて多少の出入があつて直線ではない。

平安京の立地を条里の側から見れば、その南京極は紀伊、愛宕両郡界より約一町南の東西線にとられていると云い得る。又平安京の中心南北線たる朱雀大路は葛野、愛宕両郡界線の約一町東に位置することがわかる。

さて平安京の選地については拾芥抄が天曆御記を引用して秦川勝、橋本大夫の宅であつた、南殿前庭の橋は旧跡によつて之を殖えたと云つている。喜田博士^③はこれより平安京造宮大夫藤原小黒麿の夫人が秦忌寸鳥麿の女であることとを辿り、鳥麿が川勝直系の後裔であつたらうとして、その邸宅を提供したものならんとされた。

大宮所の選地に秦氏の寄与する所が假令斯くの如くであつたとしても、これが唯一の原因で平安京の立地がきまつたとは見られない。東西一五〇八丈、南北一七五三丈に達する大都城の建設であるから、その条坊がうまくこの盆地におさまるよう左右の均勢、南北の配置を考慮した筈である。それにはこの盆地に敷かれてあつた条里の地割は最も掘るべき準繩となつたであらう。つまり盆地南半の卓湿の地

会 報

史学研究会六月例会、特別例会及び大会の予定は次の通りです。
多数の御参加をお待ちしております。

一、六月例会

日時 六月二日（土）午後一時

場所 京都大学薬友会館

律令時代の墓地について

日本考古学の近況

戊戌変法を繞る政治的諸情勢について

一、特別例会

日時 六月三十日（土）午前九時—午後五時

場所 京都大学文学部第一教室

シンポジウム「戦後十年の回顧と今後の課題」

を避け、東西の丘阜間に計画をおさめる為に、この盆地の条里の基準線とおぼしき東西線即ち紀伊愛宕郡界線附近を

南京極にとり、南北基準線とおぼしき葛野愛宕郡界線附近を朱雀大路に選んだものであろう。

右の選地がたまたま秦川勝邸を大内裏に包括することとなり早急の選都に一層利便を得たかの如くである。

かくて平安京の立地は平城京と同じく既存の条里地割を利用してその上に計画されたものといふことができる。

① 吉田敬市 山城乙訓郡の条里 紀元二千六百年記念史学論文

集 昭和十六年

② 東京大学史料編纂所 山城国葛野・乙訓両郡条里補考
土地制度史研究会 史林三十二の二 昭和二十四年

③ 喜田貞吉 帝都

大正四年

（昭和三十年十一月十九日稿）

開会の辞

日本史

藤 直幹氏

宮崎市定氏

地理学

松井武敏氏 浮田典良氏

考古学

水野清一氏 坪井清足氏

東洋史

貝塚茂樹氏 河地重造氏

西洋史

会田雄次氏 田村満穂氏

閉会の辞

原 隨園氏

一、大会

例年通り十一月一日（木）見学、二日（金）史学研究会総会及び大会、三日（祭）読史会・東洋史談話会、西洋史読書会各大会を行う予定です。

一、文学部創設五十周年記念特別例会

十一月二十三日（祭）に五十周年記念の特別例会として講演会を行う予定です。

Before and After the Decipherment
of a Minoan Script

by

Kazunosuke Murata

One of the three kinds of the Minoan script, that is, the Linear B has been deciphered by M. Ventris. Of course, there is a long history as the background for this final success. It was the excavations and studies of A. Wase, C. W. Blegen, A. Furumark and others which undermined the traditional view on the script. It was by A. Kober, E. Bennett and others that the characteristics of the Linear scripts were more fully revealed and the Linear B was proved to be Greek in essence. Without the struggles of these scholars and the complete publications of sources, Ventris's achievement would not have been possible.

This decipherment, on the other hand, has resulted in unexpectedly great changes in terms of Aegean history. Now the re-writings are needed concerning the L. M. II, the Kingdom of Nestor, the society and religion of Mycenaean Ages, and the early period of Greek history. Here the author has introduced articles of various scholars on these periods and criticized them.

Jori (条里) of Yamashiro (山城)
and Heiankyo (平安京)

by

Jiro Yonekura

This essay intends to investigate the city plan of Heiankyo (平安京) on the basis of Jori (条里). The reproduction of Jori of both Otagi-gun (愛宕郡) and Kii-gun (紀伊郡) has shown that the border line between them was running east to west across

the midst of the northern part of Yamashiro Basin. This line seems to have become the southern extremity of Heiankyo. The border line between Kadono-gun (葛野郡) and Otagi-gun was running from north to south amid of the Basin. This one seems to have been adopted later as Suzaku-oji (朱雀大路) of Heiankyo.